今も息づく復興の証

先日行われた、前橋花火大会。実は、前橋の戦後復興と深い関係があることを知っていますか。この大会は昭和23年から行われた、復興祭の一部として始まりました。復興祭はその後、商工祭や前橋まつりと名前を変えて、現在まで続いています。

本市に大きな被害をもたらした前橋大空襲から、8月5日で70年が経過しました。

終戦直後、焼け野原の中から、当時の市民は汗を流し、見事復興をとげて現在の前橋の基礎をつくり上げました。その復興の証は、今でも市内各地で見られます。

しかし、時がたち、戦争や空襲の体験、戦後復興の記憶を語ることができる人は少なくなってしまいました。これらの体験や記憶を次の世代に伝え、つないでいくことが、今この時代に生きている私たちの使命であり、どうつないでいくかが課題だといえます。また、これらのことから私たちは多くのことを学ぶことができるのではないでしょうか。

今回の特集では、多くの人に空襲やその後の戦後復興の体験を語ってもらい、そしてそれらを体験していない世代の人に、前橋大空襲や戦後復興についてどう思い、何を感じるかなどを話してもらいました。

本紙は70年目の終戦記念日である8月15日発行号。この機会に空襲や戦争のこと、戦後復興のこと、そしてこれからの前橋のことなどを改めて考えてみませんか。

光が照らすその先に

特集 復興で築いたもの 前橋の未来――

ことしは戦後70年。新聞やテレビなどでも、これに関連した多くの特集が組まれました。戦災と復興の記憶が薄れつつある今、過去に経験したことを見つめ直し、そこから得た教訓を生かす必要があるのではないでしょうか。

この特集では、戦後復興とこれからの前橋について考えます。

問い合わせは
市政発信課 ☎027-898-6642